



発達障がい児向けサッカー ×ユニバーサルツアーリズム

発達障害は、見た目にはわかりにくく、社会認知度が低いことから、本人と家族が日常において周囲から色眼鏡で見られたり、しつげがなっていないと言われたりすることが多く、外出や旅行をためらうケースが多いと言われています。また、発達障害児には、特性から感覚過敏の方も多く、人混みなどが外出等における障壁となっており、スポーツ観戦に関しても楽しむ前にあきらめてしまっている子どもも多いとも言われています。今回の取組は、このような社会の偏見や誤解を払拭し、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」に掲げる「心のバリアフリー」を進め、誰もがスポーツや旅行を安心して楽しめる社会の実現に向けて取り組むものです。

活動場所 : 等々力陸上競技場及び麻生グラウンド

取組テーマ : ダイバーシティ（共生社会）

協働者 : 企業／行政／サポーター

協働者名 : 川崎市、内閣官房、富士通株式会社、株式会社JTB、全日本空輸株式会社、川崎フロンターレサポーター、大分トリニータサポーター

活動で工夫した点

とにかく子供たちの立場になって考えること。音や光をコントロールできるセンサリールームを設置し、安心してサッカー観戦をしてもらえるようにしました。また、両チームサポーターによる横断幕の掲出やひらがな応援歌詞カードの作成などで子供たちが楽しく応援できるようにしました。大型ビジョンの選手名もひらがな表記にし、スタジアム全体での取り組みを実施することが出来ました。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

関係者が多く、まずは運営スタッフ「発達障がい」の事を知らなければならぬと思い、JTBさんによる「心のバリアフリー研修」を受けました。また、富士通さんによるVRで発達障がいの症状を疑似体験ができ、実際の子供たちの見え方を事前に理解することができた。

クラブや地域の活動後の変化

社内での理解はもちろんですが、当日川崎市長が来場者の前で取り組みの事を発言していただき、スタジアム一体での取り組みを実施することができ、多くのサポーターに認識してもらうことが出来ました。また、地上波を含めた多くのメディアで取り上げていただき社会的にも大きく発信をすることが出来ました。



協働者の声

全日本空輸株式会社・堯天様：「飛行機に乗って、スタジアムにサッカーを観戦しに行く」というお子様の大きなチャレンジをANAグループが一体となってサポートしたいという想いから参画しました。沢山のお子様やご家族の笑顔、喜びに触れることができ今後も活動に参画していきたいと考えています。

川崎市・原様：「見た目ではわかりにくく、まだまだ社会の理解を必要とする発達障害の方にスポットをあて、誰もが安心してスポーツを楽しむにはどうしたらよいか、ということを経験した企業の皆様と一緒に考えて実施しました。サポーターや選手から多大なるご協力もあり、ご参加者からは「お子様の自信につながった」といった声もいただき、誰もが当たり前スポーツを楽しめる社会にしなければと想いを新たにしました。」
株式会社JTB・関様：「今回はスタッフ向け「心のバリアフリー」研修を担当しました。プロジェクトを通じて共生社会の実現に貢献したいです。」

参加者の声

大きな音や人混みは苦手、日射や暑さにも弱い、センサリールームは、自閉症の特性があってもスポーツ観戦を楽しめる素晴らしい施設ですね！今まで行きたくてもスポーツ観戦が好きな父親が諦めざるを得ず、今回のイベントをきっかけに、スタジアムへ行くことが楽しみのひとつになるかも、新しい世界が広がりました。息子は、選手とのハイタッチや、コロッケさんのハーフタイムショーが楽しかったようです。

活動の「ここぞ！」というPRポイント

本プロジェクト名が「えがお共創プロジェクト」です。その名の通り多くの子供たちの笑顔を多くの関係者と共に創り上げた活動です。

補足

ここでは書ききれないほど、多くの工夫や取り組みをしました。後日談ですが、今までは外出するのも困難な参加者の子ども一人が、この観戦及びサッカー教室で自信をつけその後学校にも行くことができ、また11/2広島戦では、クラブスタッフと母親と一緒に中心応援エリアで応援することが出来ました。一人の子供の大きな成長を見ることが出来ました。